カトリック八尾教会ニュース 2025年3月

Tháng ba

【今月の予定】　ミサの時間

2日(日)年間第8主日	7：00	
	10：00	故フスト.セグラ神父様追悼(2023.3.5 帰天)
5日(水)灰の水曜日	19：30	『灰の式』　（大斎・小斎）

└「四旬節愛の献金」：キャンペーン小冊子や献金袋の配布があるので、ご利用ください。

9日(日)四旬節第1主日	7：00	
	10：00	
15日(土)初聖体勉強会	14：00	
信仰講座	16：00	
16日(日)四旬節第2主日	7：00	
	10:00	故アウグスト.バンバール神父様追悼(2000.3.17帰天)
ベトナム語のミサ	15：00	「病者の為の祈りの集い」（10時ミサ後）
17日(月)日本の信徒発見の聖母	――――	
19日(水)聖ヨセフ	――――	
21日(金)性虐待被害者のための祈りと償いの日	――――	
23日(日)四旬節第3主日	7：00	典礼委員会(10時ミサ後)
	10：00	子どもと共にささげるミサ，ＢＬ会議(13:00～八尾)
30日(日)四旬節第4主日	7：00	
	10：00	

＊「大斎」一日に一回だけの十分な食事とそのほか朝ともう一回わずかな食事をとることができ、満18歳以上満60歳未満の信者が守ります。「小斎」肉類を食べないことですが、各自の判断で償いの他の形式、とくに愛徳のわざ、信心業、節制のわざの実行をもって代えることができ、満14歳以上の信者が守ります。

【平日のミサ】　木曜日　10：00　27日のみ（6日、13日、20日はお休み）

■2025年四旬節黙想会のお知らせ

典礼委員会

当教会での四旬節黙想会は開催しませんが、枚岡教会と布施教会で行われる黙想会に自由にご参加ください。

◎枚岡教会黙想会――――　3月9日(日)　(指導司祭) 霧島神父

(スケジュール) 講話①「希望の巡礼者」9：15、ミサ 10：00、講話②「主の受難」11；00、 14：00 ベトナム語のミサ（ピーター神父：ドミニコ会）

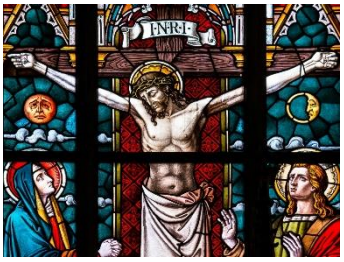
◎布施教会黙想会――――　3月9日(日)　(指導司祭) アン神父「十字架の道」

3月30日(日) (指導司祭) 竹延神父

(スケジュール) 講話10：30、ミサ11：30

※八尾教会は3月9日(日)、30日(日)通常通りのミサがあります。

また、ゆるしの秘跡はいつでも司祭にお声をおかけください。



■お願い

◎聖歌の練習をミサ前（９時４０分）より行っています。短い時間ですが、一人でも多くの方の参加をお願いします。

◎２月の評議会で通常のミサでは一階ホールは使用せず、聖堂（１２０人程使用可。超える場合はホールを使用）のみになりました。聖堂の前方より、譲り合いお座りください。

◎社会活動委員会に参加してくださる人を募集中。先ずは、炊き出しの人手を募集。（４月第二土曜日かわちブロックが担当）

其処にいた

崔　周永神父

中学生の頃は軍人になってみようかと思った時期があった。そのまま目指していたら、陸軍士官学校に入り、将校になったかもしれない。自分をストイックな人間だと思う。厳しい規律に従い、徹底して自分を律する軍人、それに、いざとなった時には命を惜しんではいけない軍人への憧れは、恐らく今も無意識にも持ち続けていると感じる。幸いというか、職業としての軍人への道は選ばず、普通に徴兵制に従い兵士としての兵役を終えた。振り返るのも嫌になるほど酷かったとしか言えない２年４か月と１４日だった。

ネットフリックスで、1993年起こったソマリアでの事件、つまり、アメリカ軍のブラックホーク機が墜落させられ死傷者も発生した出来事をドキュメンタリーにしたのを見た。世界最強の軍隊の米軍、それも、トップエリート米軍部隊がソマリアの街中で、最強の武器でもある攻撃用ヘリコプターが２機も撃墜されてしまった状況下、数的に圧倒するソマリア民兵達と激しく戦うことになる。本来の目標とは打って変わって、負傷者を連れてただ基地に生きて帰るために！

小銃を構えて射撃をしたこと？勿論ある。小銃弾は直径5.56㎜で、想像の通り、殺傷用で打たれたら命はそこまでとなる。　1990年4月頃、訓練所の射撃場、ヘルメットを被って、標的に20発の銃弾を浴びせた後の気持ちを今も忘れられない。　私は決して、この小銃で人を打つことがあってはならない、と。

ネットフリックスのあのドキュメンタリーの中の米軍達は物凄い弾幕にぶつかり、八方塞がりのような難局を死ぬ思いで脱出していく。激しい戦闘が繰り広げられたその場所は、子供たちの学校もある住宅街で、子供たちや女たちもその渦中で怪我を負っていた。悲劇だったとの一言で片づけられないことが其処で起こったのだ。

３０年以上も過ぎて、カメラの前に立っていた画面のソマリア人、それに、当時の米軍達。彼らの様子に、話しへの感想をどう言ったらいいか、難しい。

しかし、これは確かに言える。

命の尊さ！平和の大事さ！